

# 『森のこだま』 寸評

- ・ 森のこだまというより森の朝、明け方の方がふさわしくおもえる
- ・ 楽想がまさにピッコロにドンピシャ
- ・ 変化に富んだ曲想、緩急もありきいててよろこばしい
- ・ ピアノとピッコロの対話が同時または交互にあらわれるのもとてもよい

完成度をさらに上げるために

- ・ m.7 Picc. 休符を二分休符にまとめよう
- ・ m.11 ピアノ左手の休符を全休符にまとめよう
- ・ m.10 Picc. 全休符は小節のまんなかに
- ・ m.1 b.4- m.2 b.1 Picc. スラーはタイの1つ目の音符からはじめてもよい



- ・ m.13 ピアノの和音は音符の2拍分かペダルの4拍分か  
どちらを信じればいいのか
- ・ m.5 b.4 ピアノは右手の和音が変わるのでペダルをふみなおすだろう
- ・ m.8 ミ♭で属七のほうがかきいてて自然
- ・ 全体的にピッコロが限界にちかい高音域  
オクターヴ下げててもよいくらい
- ・ m.16 b.3 Picc. 付点八分休符 ♫でもよい
- ・ m.16 m.13 で指示した *mf* のままなのでつけなくてよい
- ・ m.15 b.1 *8va*-----|はこの音符までかかる

m.=measure 小節番号のことです。  
b.=beat 拍のことです。

楽想と楽器への想像の“説得的”  
本心  
持毫勉